

# 遠藤彰子展

## 注目の6作品

長井市の「卯の花姫」伝説から着想を得た最新作で、遠藤彰子さんが初めて歴史を題材にした作品でもある。

画家遠藤彰子さん(75)＝相模原市＝が絵画の常識を超えて創作した大作群を体感できる。同館の黒沢匠主任学芸員が、展示している約80点の中から注目の6作品を解説する。

前九年の役(1051～62年)が起きた平安後期、敵将・源義家に恋をした卯の花姫は、一族の命を救うことと引き換えに父・安倍貞任の布陣を義家に伝えるも、それがもとで一族は滅亡への一途をたどった。最上川支流である野川上流の三淵溪谷へと追い詰められ、家臣らとともに断崖から身を投じた姫は、その後、竜へと姿を転じた。この伝説は、長井の伝統芸能「黒獅子舞」にも影響を与えたとされる。

遠藤さんの初の試みとして、本作には甲冑(かぶと)を着た武者が描かれている。また、縦長の画面を生かすため構成もこだわったと語っている。とりわけ、全体に大きな動きの流れをもたらす竜の胴体や、断崖の

「揺れる風(卯の花姫)」 2023年、縦259センチ、横194センチ

①



## 長井の伝承初の歴史作品

間からのぞく青空の空間表現は何度も手直しを行い、ようやく完成したという。

現する時に挑み続けている。そんな遠藤さんが、戦乱の世にあって一度命を失い、自然の権化として新たな生を得た卯の花姫の物語と出合ったことは、ある

本展のために描かれ、山形限定での公開となる。長井の人々はもちろん、県内外の多くの人に遠藤芸術が織りなす山形の伝承世界を

ご覧いただきたい。

これまで遠藤さんが創作で追求してきたのは、流転する生命の営みである。あ

意味必然だったのかもしれない。

意味必然だったのかもしれない。

ご覧いただきたい。